

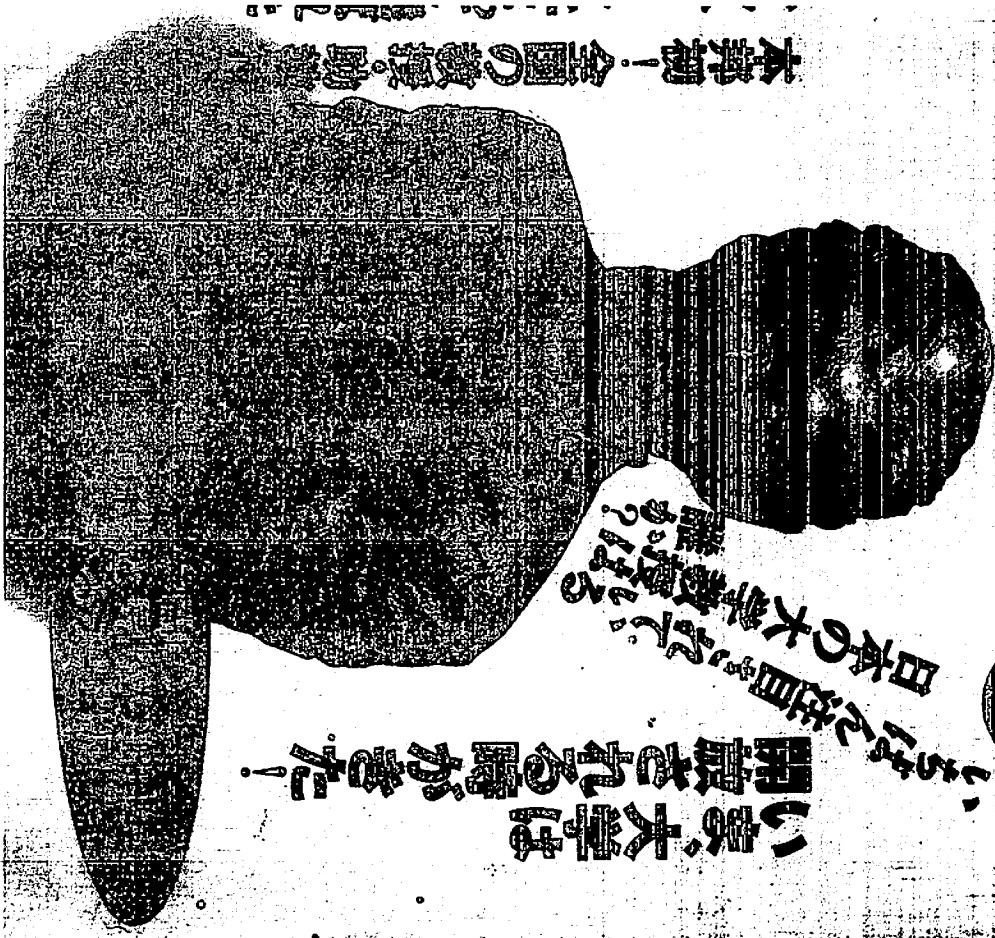
学問の巨人

河合塾



日本の大学で、
誰が教えるのか？

いま、大学は
開放される時がきた！



本邦初！全国の教授・助教

アカデミアを
リードする学者
1125人が登場！

【人間を探る学問】

哲学・倫理学・思想史
認知科学
臨床心理学

【文化を解き解く学問】

国文学
美学・美術史・芸術論
文化の社会学

【身近な社会を問い直す学問】

組織論
刑事法
環境問題研究

【新たな世界像を描く学問】

文化人類学
西洋の歴史
東アジア・東南アジア地域研究

【21世紀を見つめる学問】

市民社会の政治学
経済学
国際関係研究



偏見価値だけでは
決められない
大学選びガイド！

健康65983-64
定価：本体950円+税

ISBN4-7966-9322-X
C9437 ¥950E



9784796693226



1929437009501

思われるアジアにおける最前問題
について若林正史「台新—板橋
期の政治と経済」(田中清貞一九六
七)がある。

日本を歴史的に考えるとき、竹
内好「日本とアジア—ちくま歴史文
庫一九九三が参考になるが、日
本の近代化を扱ったこの論考は文
学思想という観点から行なわれ
ており、歴史の観点から今一度再
吟味する課題が残されている。

また濱下は近著「朝貢システムと
近代アジア—香港復興一九七
において東アジア地域、東南アジ
ア地域にまたかつて考える政治空
間「経済空間」の概念として朝貢シ
ステムを捉え、そこに見られる宗
主権、主権非組織ネットワーク

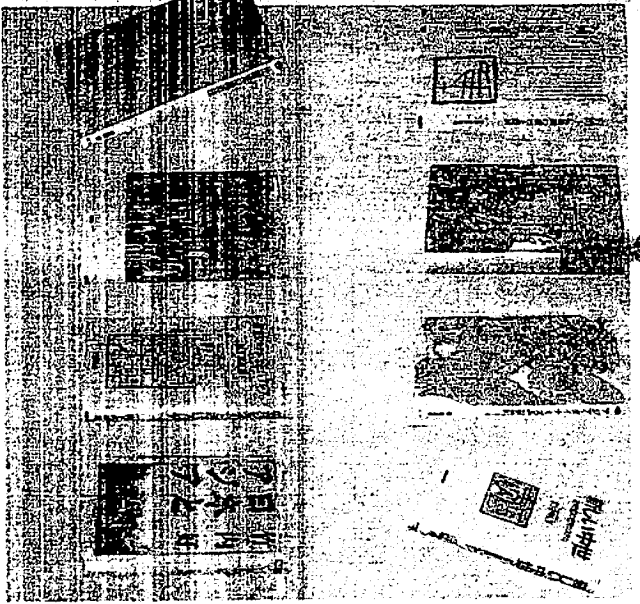
モデルを香港の歴史問題も含めて
論じている。さらに香港問題を考
えるとき、瀬川昌久編「香港社会
の人類学」(風響社一九七)が版
先端の議論をしている。アジア史
をより広い視点で、比較史の観点
から見ようとするとき、斎藤修氏
の近著「比較史の導引」(NTT
出版一九七)は多くの示唆に富
んでいる。

題もあらためて問われている。現
在の経済発展・社会化の中で、こ
れらの地域がどのような歴史的根
拠をもっているかということも問
われている。このように東アジア、
東南アジア地域史を考えるに際し
てはいくつかの課題が複層的に
存在している。

まず歴史的に東代をどのように
位置づけ、今後を見とよむかとい
う点について、田中明彦氏が世界
史的な視点で問題を提起した「新
しい「市世」 21世紀の世界シス
テム」(日本経済新聞社一九九
六)また現在のアジアの経済発展
の地域的な根拠を議論したものに
関津文介「アジア・タイニスム」
(NTT出版一九九)がある。ま

た近年注目される華僑・華人のネ
ットワーク、歴史をあらわしたも
のにリン・パン「華人の歴史—み
ずす青島一九九五)が挙げられよ
う。またこれから重要性を増すと

東アジア地域史 東南アジア地
う地域区分をどのように考えるか
域史を考えるとき、長期の時軸
をどう捉えるかという問題がある。
そのように位置づけるかという課



市民社会の政治学

21世紀を見ずえる学問

BOOK GUIDE

松下圭一 (1929)	法政大 法学部 政治学科 教授	【民族と市民】 60年代を中心に実際に自治体行政に関わるなど、戦後の市民の立場からの政治学を明証。とりわけ行政が市民に開かれた最低限の行政に多大な影響。「戦後政治の歴史と思想」はその集大成。
高島通敏 (1933)	立教大 法学部 政治学科 教授	【民族と市民】 松下の自治体派に對し「わが国は連動派。60年代安部では「田無き山の代表」で無党派市民を連動の担い手として組織化し、他見地からと維新「思想の科学」を創刊。その後小田実の「ベ平連」にも創立メンバーとして参加。80年代の各選挙区での現地調査とルポ執筆も知られる。
篠原一 (1925)	東京大 各経教授	【民族と市民】 ドイツを専門とする比較政治学者として、ヨーロッパの市民連動をいち早く紹介。ジュネーブ、環境保全、地域主義と知られる。連動のスタイルを広めた。市民参加をキーにした思想は、世田谷、練馬の市民講座を生みだし、その後の全国的な広がりにつながった。
坂本義和 (1927)	東京大 各経教授	【世界新秩序の構想】 冷戦体制下の60年代からすでに、国家を介さず市民が参加するNGO、NPOなどの国際民間団体、国連などの国際機構を軸にした世界平和のあり方を提唱。平和学会を創設。まさにボストン丸山貞男の東大法学部教授として、ラジカルな戦後理想主義を貫く。
内山秀夫 (1950)	新編国際情報大 学長	【代表制と自己決定】 いち早く民主主義の形骸化を指摘、さまざまな多岐の政治理論を紹介。その姿勢は競争体験から一貫して反目的で、多岐の政治理論では語れない人間の価値をめざす。教育に体现されたその思想は、歴代時代多くの研究者やジャーナリストを育てた。

*「鉄人」は、市民社会の政治学研究者に活動している中堅の研究者としてとくに推薦の多かった研究者を、「達人」は顔顔としてとくに推薦の多かった研究者をまとめたものです。

【代表制と自己決定】 いち早く民主主義の形骸化を指摘、さまざまな多岐の政治理論を紹介。その姿勢は競争体験から一貫して反目的で、多岐の政治理論では語れない人間の価値をめざす。教育に体现されたその思想は、歴代時代多くの研究者やジャーナリストを育てた。

【世界新秩序の構想】 冷戦体制下の60年代からすでに、国家を介さず市民が参加するNGO、NPOなどの国際民間団体、国連などの国際機構を軸にした世界平和のあり方を提唱。平和学会を創設。まさにボストン丸山貞男の東大法学部教授として、ラジカルな戦後理想主義を貫く。

【民族と市民】 ドイツを専門とする比較政治学者として、ヨーロッパの市民連動をいち早く紹介。ジュネーブ、環境保全、地域主義と知られる。連動のスタイルを広めた。市民参加をキーにした思想は、世田谷、練馬の市民講座を生みだし、その後の全国的な広がりにつながった。

【高島通敏】 松下の自治体派に對し「わが国は連動派。60年代安部では「田無き山の代表」で無党派市民を連動の担い手として組織化し、他見地からと維新「思想の科学」を創刊。その後小田実の「ベ平連」にも創立メンバーとして参加。80年代の各選挙区での現地調査とルポ執筆も知られる。

【篠原一】 ドイツを専門とする比較政治学者として、ヨーロッパの市民連動をいち早く紹介。ジュネーブ、環境保全、地域主義と知られる。連動のスタイルを広めた。市民参加をキーにした思想は、世田谷、練馬の市民講座を生みだし、その後の全国的な広がりにつながった。

【坂本義和】 ドイツを専門とする比較政治学者として、ヨーロッパの市民連動をいち早く紹介。ジュネーブ、環境保全、地域主義と知られる。連動のスタイルを広めた。市民参加をキーにした思想は、世田谷、練馬の市民講座を生みだし、その後の全国的な広がりにつながった。

【内山秀夫】 いち早く民主主義の形骸化を指摘、さまざまな多岐の政治理論を紹介。その姿勢は競争体験から一貫して反目的で、多岐の政治理論では語れない人間の価値をめざす。教育に体现されたその思想は、歴代時代多くの研究者やジャーナリストを育てた。



ボストン論 批判の「市民」といふ概念を今 新たな発見が

戦後、政治学は戦前の政治学者が戦争責任を問われて追放されるなかで、まったくゼロから始まり、その目標は近代国家樹立であった。その背景は民主主義体制が、ある程度成熟した問題の所在が単純ではなくなること、東大法学部を中心として学者集団が在野から代官的思想は陶原繁、福田繁、日本思想は丸山貞男であり、このメンバは、新民主道らの東大法学部が日本固有のあり方に根ざし、た体制樹立をめざすのに対し、日本由来のあり方を全面的に否定して新しく民主主義国家を打ち立てることをめざした。

したがって市民社会の政治学の勃興は東大法学部を中心となつた。物興は東大法学部が中心となつた。その生みの親が松下圭一、高島通敏、篠原一ら連人だちである。彼ら六〇年代を中心とした公替部の人丸山、福田といった系列ではない点で共通する。

千葉真 (1949)	国際基督教大 社会学部 社会学科 教授	【民族と市民】 90年代において市民という言葉の意味が放散するなかで、現代日本にとって市民的存在とは何かを問い直すことで民主主義の活性化の可能性を問う。まさにラジカルなフェミニズムの提唱者。公共性・共通善・差異の承認など政治思想家として規範的に迫る。
大瀬秀夫 (1943)	京都大 法学部 教授	【代表制と自己決定】 折田らと吹流派の政治学手法を取り入れる維新「リソアイアサン」グループのひとりとして、現実の世界を踏まえた国家相対論的の色彩の強い政治学を展開。日本の吉田茂、ドイツのアナウアーによる二つの收復国の戦後比較研究は、実証的で特筆。
加藤節 (1944)	成蹊大 法学部 政治学科 教授	【国民国家の要質】 ホッブズ、スピノザ、ロックが活断した近代社会の萌芽期における、人が宗教を克服し個人を確立していく過程を追った研究が特徴。まさに抽象的概念としての市民の生成を問う思想。雑誌「世界」の読者であると同時に、南原繁、折田繁一の後継者を自認。
最上敏徳 (1950)	国際基督教大 ICU平和研究所 所長	【世界新秩序の構想】 国際関係論の研究者で、主権国家に對抗してきたさまざまな国際機構が、現実の国家の能力がゲームに絡め取られていくことを鋭く指摘。真の平和のための国際機構を説く。坂本義和の後継者の存在で、学生をアウツキャストに連れていくなど平和教育にも熱心。
加藤哲郎 (1947)	一橋大 社会学部 教授	【国民国家の要質】 アルクス主義を取り込む市民社会構築をめざす。ゆえに市民社会の最上位概念の自由より平等を風入し所有権の制限をも含む独自の思想を展開。具体的な社会の要の提示には至らないが、共產主義の要質による市民社会の構築への契機、東欧革命に可能性をみる。
美谷中 (1950)	東京大 社会学部 社会学科 助教授	【異民族共生の条件】 大戦後旧植民地国に対する責任回還が平和憲法の精神、人権・平和などを実現できない戦後日本を生んだと指摘。「在日」の視点を取り込んでこそ日本の真の自立＝民主主義国家が可能と説く。ハンサムでクール。語りは論理的で女性ファンも多い。
栗原彬 (1936)	立教大 政治学科 教授	【民族と市民】 「知」の社会学者にして政治学者。若者、水原病患者など、たえず弱者を他者としてではなく自らと見做し、現代人の自立のあり方と弱者を取り込む共生社会を探る。弱者を自らに取り込む姿勢は詩的であり、一部に圧倒的な人気。
山口二郎 (1950)	北海道大 法学部 政治学科 教授	【代表制と自己決定】 今珍しい熱血派政治学者。いち早く官僚支配の弊害を突き、強い政府、政権可能な改革システム、旧社会党を支援しての「創憲論」提唱と政治刷新に向けてのパスワートはただならず、55年体制崩壊も予期。たえず時代をリード。岩波新書「政治改革」はベストセラー。
佐々木毅 (1942)	東京大 法学部 教授	【国民国家の要質】 福田一門下として、優れたセンスでボクシング、フットンを読み込み、とりわけ、マキヤベリの魅力の引き出しの思想を今に継承したことは特筆。まさに政治思想研究の牽引者。現実政治への関心として小選挙区比例代表制導入にも賛成。
川崎修 (1958)	北海道大 法学部 法学課程 教授	【代表制と自己決定】 ナチズムに追いつかれたユダヤ人女性思想家アレントの公共領域から市民社会のあり方を考える。アレントに影響を与えた20世紀初頭の哲学者のひとりにして、ナチス加担も問われるハイデガーから近代の限界も問う。若き俊英、果敢に根源の問いに挑戦。

